

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月18日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2773300328
法人名	社会福祉法人 慈福会
事業所名	グループホームめぐみ苑
所在地	大阪市西成区千本北2丁目12番2号 (電話) 06-6654-2351

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 8月 1日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 3月 25日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤	7人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ②		
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	① / 無
食材料費	朝食	280円	昼食 560円
	夕食	560円	おやつ (実費)円
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	5名	要介護2		2名	
要介護3	2名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 77歳	最低	67歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慈勉会 浦上病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの建物内には在宅介護支援センター、通所介護、訪問介護事業所が併設しており、地域の方が相談に訪れています。また、自治会に加入し、地域行事の情報を利用者に提供して参加を支援するなど、地域との交流に積極的に取り組んでいます。地域住民が手芸、ちぎり絵、コーラス、習字等、利用者の楽しみごとを手伝うためにボランティアに来てもらうなど、取り組みの成果も見られます。利用者は比較的ADL(日常生活動作)が高く、日々の日課や役割などを積極的に行い、張りのある生活を送っています。「利用者が好きな時間に、好きな事を、好きなだけできる」をモットーに、職員もその日の日課にとらわれず、利用者の表情や様子などから利用者の意向を読み取り、無理強いすることなく支援しています。母体法人である病院の院長自ら毎週1回往診に来られ、健康面でのサポートを行っています。利用者の重度化や看取りに対する不安などを見据え、体調不良者の早期対応を迅速に行い、病院との医療連携がとられており、利用者、家族にも安心感を与えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価の改善点では、入浴回数の検討がりましたが、職員と一緒に改善方法について話し合いが持たれ、併設デイサービスの浴室も利用しています。また利用者や家族にも意向や意見を聞くなど、さまざまな方法を試みて工夫され改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員にも意見を出してもらいながら、管理者と介護主任で相談し作成しています。職員は外部評価の意義をしっかりと理解し、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢が見られます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されています。参加者は家族、町会長、ネットワーク委員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの行事報告や利用者の生活ぶりを伝えています。またホームから、地域に向けて、災害時の避難場所にホームを使用してもらう等の提案なども行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、利用料の請求時に担当スタッフが、利用者の1ヶ月の様子をきめ細かく記入し添付しています。その他に年に3回は季刊誌を発行し、行事の風景や、案内などを家族に郵送しています。面会時に職員が話しやすい雰囲気を作り、親しみやすい関係をつくっており、気軽に苦情や相談事などを言える機会を作っています。金銭管理は、家族の面会時に領収書と残高を確認してもらい、サイン、確認印をもらっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	手芸、ちぎり絵、コーラス、習字などの地域のボランティアの訪問がいつでも月1回程度あり、地域や、ボランティアの方との交流により利用者も積極的に参加し、張りのある生活を送っています。自治会にも加入し、自治会長の訪問や、地域行事の情報提供、夏祭りの参加など地域との関わりも多くあります。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年に理念をより明確に、そして地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解した上で、職員と相談し話し合っって新しい理念をつくりあげています。「1. 地域の皆様の協力を得ながら、その人らしい日常生活が送られるよう支援します。2. ご利用者の思いを大切に安心して暮らせるよう支援します。3. 社会福祉法人として地域へ貢献できるよう努めます。」を理念とし、また、「利用者が好きな時間に、好きな事を、好きなだけできる」をモットーに日々取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関、リビング、スタッフルームに掲示し、職員の名札の裏にも理念を入れ、常に理念を意識しながら日々のケアに取り組んでいます。毎朝の申し送りやケアカンファレンスの際には、理念に基づいたケア方法を話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	手芸、ちぎり絵、コーラス、習字などの地域のボランティアの訪問がいずれも月1回程度あり、地域やボランティアの方との交流により利用者も積極的に参加し、張りのある生活を送っています。自治会にも加入し、自治会長の訪問や、地域行事の情報提供、夏祭りの参加など地域との関わりも多くあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点では、職員と一緒に改善方法について話し合いが持たれ、さまざまな方法を試みて工夫しています。今回の自己評価は、職員にも意見を出してもらいながら、管理者と介護主任で相談し作成しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されています。参加者は家族、町会長、ネットワーク委員、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの行事報告や利用者の生活ぶりを伝えています。またホームから地域に向けて、災害時の避難場所にホームの使用の提案なども行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故などの問題が起こった場合は、市の担当者への報告など迅速な対応ができています。生活支援課のケースワーカーとの交流もあり、利用者の生活状況報告や相談などにも積極的に乗ってもらっています。ケースワーカーの訪問も年3回程度あります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求時に担当スタッフが、利用者の1ヶ月の様子をきめ細かく記入し添付しています。その他に年に3回は季刊誌を発行し、行事の風景や、案内などを家族に郵送しています。金銭管理は、家族の面会時に領収書と残高を確認してもらい、サイン、確認印をもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱は設置されていますが、なかなか意見が表出されない状況です。しかし、面会時に職員が話しやすい雰囲気を作り、親しみやすい関係をつくっており、気軽に苦情や相談事などを言える機会を作っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時に利用者が不安になったこともありましたが、長年務めているベテラン職員がフォローし、利用者の不安を軽減する努力をしています。新人職員は家族にも紹介したり、馴染みの関係ができるまでは馴染みの職員と一緒に業務を行ったりして配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の入職時には、業務マニュアルに沿って3ヶ月は研修期間をとり、不安がないよう支援しています。法人外研修には、職員からの希望があれば参加できるよう業務を調整し、法人も積極的に人材の育成に力を注いでいます。研修後は報告書を作成し、全職員に回覧し共有を図っています。法人内研修は、必要に応じてその時々に行っていますが、計画的に研修の受講ができておらず、また「緊急時対応」の研修についても受講ができていない状況です。	○	職員は研修済みの「感染症」「認知症」に併せ「緊急時対応」についても研修を受講することが求められます。また定期的な研修を受講する機会の体制確保と整備を行うことが望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西成区のグループホーム連絡会があり、11か所のグループホームが担当制で、施設見学や勉強会の企画を行っています。交流することでアイデアや新しい発見があり、サービスの向上に役立てることができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームに見学に来てもらい、ホームの様子や雰囲気を見てもらっています。病院や施設から入居される方は、ケースワーカーや相談員から、本人の生活歴や好みなどを聞き、入居後不安感がないよう、その情報を役立てるなどして工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	入居後間もない利用者が戸惑いを感じ不安に思っている時など、本人に寄り添い、話をゆっくり聞き、その寂しさを共感しています。料理や裁縫など、利用者のできることから職員が学ぶことが多くあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでこれまでの暮らし方の把握を行うとともに、日常の関わりや利用者家族から情報を得るなど、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めています。関わりの中から得意なことや好きなことを聞き出し、新たな意向についても見逃さないように努めています。把握できた思いや意向は、ミーティングで職員同士が共有し、日常のケアに活かす取り組みを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞くとともに、職員からの情報や意見も取り入れて検討し、利用者の状況に応じた介護計画を作成しています。作成した介護計画は、職員全体に回覧しており、計画に沿ったケアが実践されています。本人や家族等の署名押印をもらっていますが、ごく一部に署名押印のない計画書もあります。今後は定期的に署名押印を得ることが望まれます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとに、状態の変化があった場合にはその都度、見直しを行っています。本人や家族に意向の確認をし、全職員にも利用者についての日常の状況を聞いた上で、モニタリングやカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。変更した内容や留意すべき事項がある場合は、目立つようにマーカーで印をして職員全員に回覧しています。今後はアセスメント記録など、記録についての整備が望まれます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している在宅支援センター、デイサービスがあり、地域からの飛び込み相談なども併設事業所と連携をとり、柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人である病院の院長の往診が毎週1回、訪問看護師も週1回訪問があり、健康管理を行っています。体調不良がある場合などは早めに連絡をとり、悪化しないよう配慮しています。看護師とは夜間は24時間連絡がとれ、指示を仰ぐことができます。往診以外に、耳鼻科、眼科、歯科には職員が付き添い通院することがあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、車椅子を使用する等の重度化になった場合や看取り等の受け入れは行っていません。入居時に本人や家族へ説明し了解を得ています。ホームで対応が困難な方には、主治医との話し合いで母体である病院への受け入れなどを視野に入れ連携体制を整えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員入職時に個人情報の保護に関する誓約書を交わしています。利用者を尊重し、適切な言葉かけや対応が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるものの、特に日課にはこだわらず、利用者が自分の思うように過ごしてもらえるよう支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の建物内に厨房があり、そこからおかずなどを運んできます。盛り付けやお茶くみなどは利用者と職員が一緒に行っています。後片付けは当番制で、職員と一緒に食器を洗っています。月に1回料理会と称して、献立、買い物、調理を利用者と一緒に考え行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意向や体調などを考慮し、4～10月中旬までは週3回、11～3月までは週2回の入浴となっています。希望や必要に応じてシャワー浴、足浴を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝のモップ掛けは利用者が各自で積極的に行っています。毎日の金魚のえさやりを担当したり、苑庭で作った野菜を育て食卓に取り入れたり、利用者はそれぞれの持てる力を活かし、日々張りのある生活を送っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、図書館に出かけたり、おやつを近くの商店街に買いに行ったりしています。ほとんどの利用者ほぼ毎日散歩に出かけています。外出をほとんどしない利用者には無理強いはしませんが、常に声かけを行い、きっかけ作りをするなど配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアは二重になっていますが、すべて自動ドアが解除され、手動で開けることができます。職員は常に見守りを怠らず、利用者の様子を見て一緒に外出することもあります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携して避難訓練を実施しているほか、グループホーム独自で、2ヶ月に1回、夜間を想定した避難訓練も行っています。緊急時対応マニュアルが作成され、備蓄品も飲料水やビスケットなどを準備しています。また、ホームを地域の避難場所として提供することを検討しています。今後、地域住民との連携協力体制が一層強化されることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	委託業者専門家による栄養管理のもとに、必 要カロリーが計算された食事を提供していま す。食事摂取量は個人ごとに記録し把握して います。水分については記録していませんが、 決まった時間に提供する体制を整え、必要量 を確保できるよう努めています。体調不良な ど状況の変化があった時には、ミーティング や申し送りノートを活用し必要量の確保に努 めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしてい る	リビングにはソファがいくつかおかれ、思 い思いの場所でゆっくり過ごすことができま す。天窗がいくつかありますが、夏の時期は 光の差し込みが強いため、簾などで光の調節 を行っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのもを活かして、本人が居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備えつけは、タンス、防災カーテン、 ベッドです。体調に合わせて、電動ベッドを 購入している方もいます。居室には、写真や 仏壇、使い慣れたタンスを置かれており、自 分なりに心地よく過ごせる空間作りができて います。		